

ソーラー&人力ボートレース
全日本選手権大会

レギュレーション

主 催／日本ソーラー・人力ボート協会
共 催／（財）マリンスポーツ財団

目次

I. 会場での注意事項	1
II. クラス分け	1
III. 船体について	1
IV. 推進エネルギーについて	4
V. 選手について	5
VI. 賞について	6
VII. 基本的会場図（概念図）	6
VIII. 競技	
1. レースの種類	7
2. 競技者への通告	7
3. 走行指示の変更	7
4. 競技規約	7
5. 船体検査	10
6. テスト走行	11
7. レース水面への推進	11
8. レース水面への推進	12
【改訂履歴】	13

I. 会場での注意事項

参加者は次の事項を遵守しなければならない。

- ・ 主催者の許可なくして、大会会場での営業活動は行わない。
- ・ 主催者は参加者の輸送費、宿泊費等の一切の費用を負担しない。
- ・ 大会の会場における肖像権は、主催者が所有する。
- ・ 新聞、雑誌その他の取材は、主催者の指示に従う事。
- ・ 主催者は、船体の破損、その他参加者が起こすトラブル、参加者がまきこまれたトラブルには一切責任をもたない。
- ・ 大会終了後は主催者の指示に従い、速やかに船体を撤収すること。
- ・ 主催者は、天候等不慮の理由でコースを変更又はレースを延期及び中止する権限をもつ。
- ・ 主催者は、レースの成立についての一切の権限をもつ。
- ・ 船体に異常が生じ、沈没等の事態が発生した場合は参加者自身が処理する事。
- ・ 競技会場内では船舶安全法の適用除外となる。しかし、練習航行等で一般の水面を航行する場合には小型船舶検査機構又は海運局の船検、及び乗船者の免許が必要になる。
- ・ 会場搬入時には主催者の船検を受けなければならない。又その後審判部長が指名した出走艇については、いつでも再船検を受けなければならない。
- ・ 登録された参加者は、実用新案等の知的所有権に関する権利は参加者にある。それらを保護する責任は参加者自身にあり、必要とする場合はあらかじめ登録等の処置をしておく事。
- ・ 大会運営に支障があるとおもわれる事態が発生した場合は、参加チームメンバーは速やかに主催者まで報告する義務がある。

II. クラス分け

		<推進エネルギー>	<動力用バッテリー>	<水中翼>
ソーラーボート部門	クラスA	480W	主催者の支給品	可
	クラスB	100W	主催者の支給品	不可
人力ボート部門	クラスA	2人まで可		可
	クラスB	2人まで可		不可
				以上4クラス

III. 船体について

船体製作にあたっては次の事項を満足している事。 尚、不明な点は協会事務局まで問いあわせて下さい。

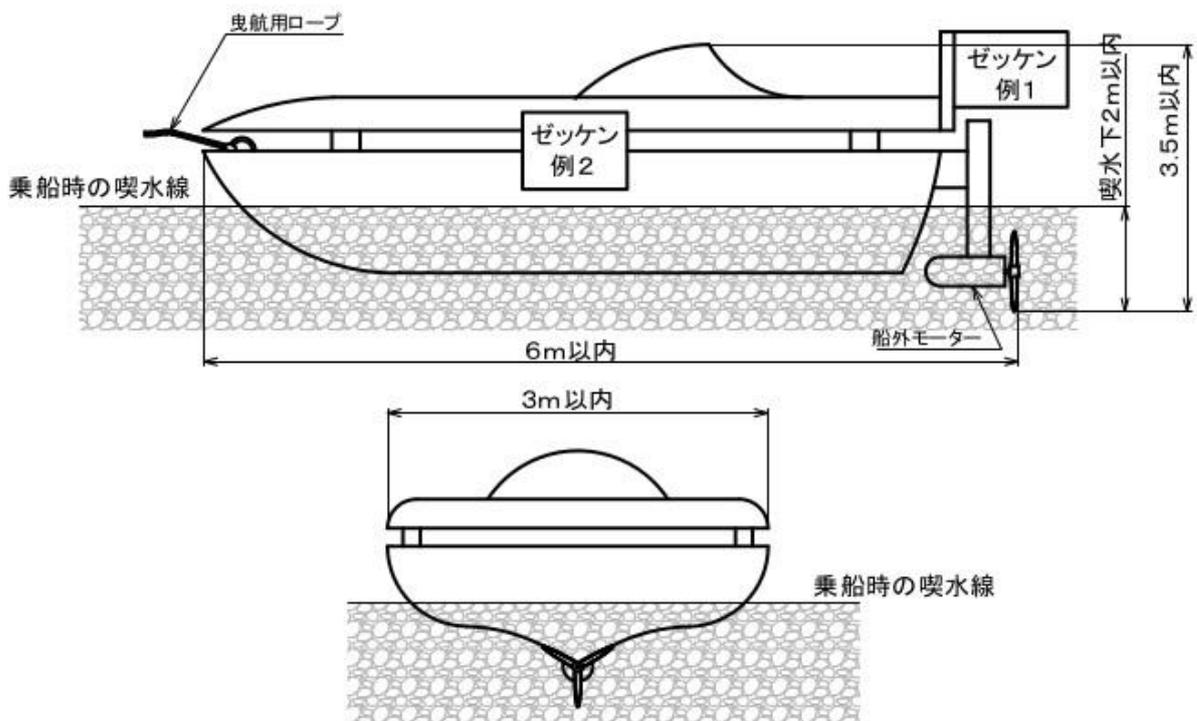
- ・ 船体に異常が生じ、沈没等の事態が発生した場合は参加者自身が処理する事。
- ・ 船体の材質は基本的に自由とするが、第三者及び選手に危害をおよぼしたり、周辺環境を著しく汚染したりする場合はあると考えられる材質は不可とする。
- ・ 乗船者並びに第三者の安全を脅かす恐れのある船体や装置等の使用は認めない。
- ・ 船体は安全に旋回、停止、前・後進が出来る事。
- ・ 船体は十分な復原性を有する事。
- ・ 船体は転覆等緊急事態に備え、いかなる場合においても簡単に脱出できる構造とする事。
- ・ 船体の安全性に問題があると主催者が判断した時は、主催者は参加者に対し構造変更、又は出走停止を求める場合がある。

- ・ 船体はロープによる曳航が可能な構造、強度を有する事。 船首付近には緊急曳航用のロープ（浮くロープ10m・直径4～6mm）を取り付けておくこと。 また、緊急時には選手が操作できる事。
- ・ 船体のサイズ（例図参照）
 - 長さ：L=6m以内（全てを含む）
 - 巾：W=3m以内（全てを含む）
 - 高さ：H=3.5m以内（全てを含む）
 - 全長とは船首前の可動部分も計測するが、船首とは船体の固定部分を言う。
- ・ 水中翼は一度取り付けてレースに出走すれば翼付きとみなす、又船検時に有無を確認する。
- ・ 船底が水面をはなれる構造の船は水中翼船とみなす。したがって、クラスBでエントリーしても、クラスAになるときはあっても、逆はあり得ない。
- ・ 船体の移動及び保管の為に必要とする船台は、参加者が用意する事。
- ・ 船体にはあらかじめ主催者が 通知した数字をW40cm×H40cmの枠の中に白地に黒文字で両舷の見やすい位置に水面に対して垂直に固定した板にゼッケンとして書き込んでおかなければならない。 文字の全高は30cmとし、見易い書体とする。
- ・ 船体（乗員が定員分乗り込んで浮いていられる、又は走れる物）は1チームにつき1艇とする。レースによる船体の変更も認めない。
- ・ ソーラーボート・人力ボート部門のクラスBでの水中翼艇は認めない。（船底が水面をはなれる構造の船は水中翼船とみなす）

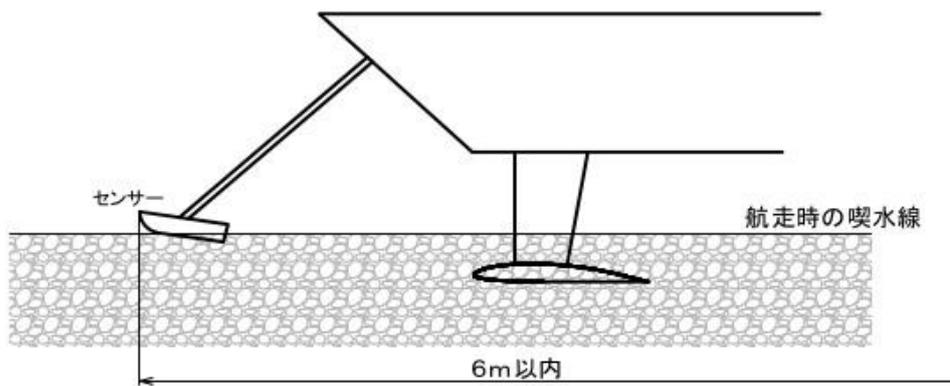
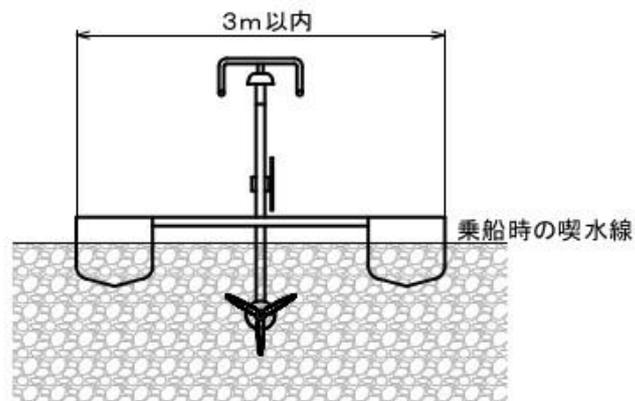
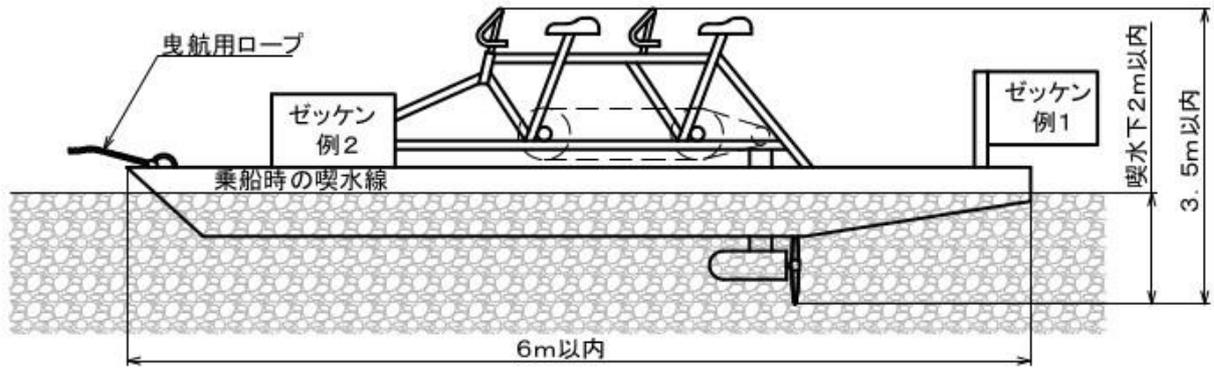
[例図 1]

[注意事項]

ゼッケンは、船体サイズに含まない。

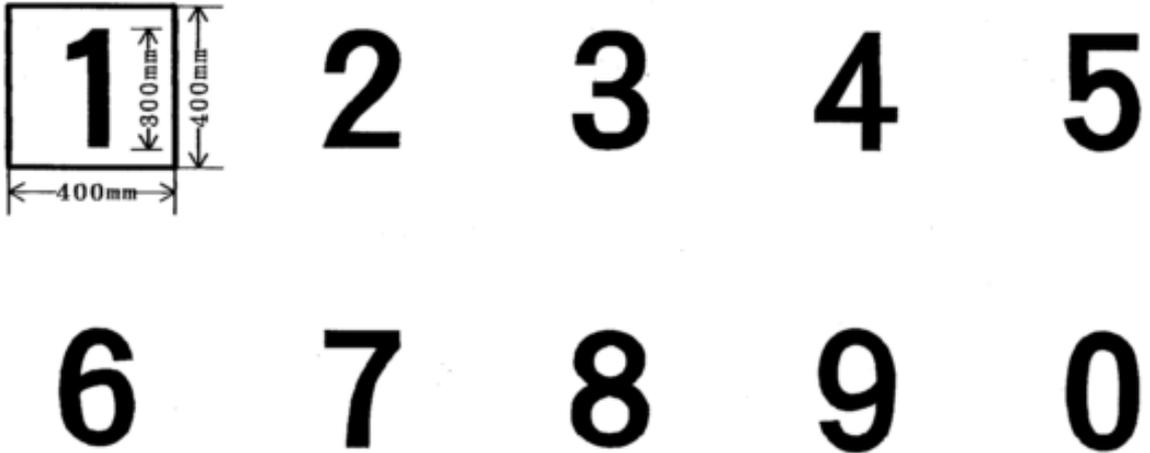


[例図 2]



ゼッケンに使用する書体（サンプル）

№. が1桁の場合



№. が2桁の場合



IV. 推進エネルギーについて

ソーラーボート部門クラスA

- ・ 動力エネルギーは競技時間中に受ける太陽エネルギーのみをそのまま、及び貸与されたバッテリーに蓄えて推進力とし、風力・人力等他の力を利用することは不可とする。
- ・ 動力の個数は制限無し。
- ・ 太陽エネルギーの使用方法については、ソーラーパネル以外（熱、等）は自由とするが、ソーラーパネルを使用する場合は、次の制限を受けるものとする。
 - ：ソーラーパネルの充電時の電圧 38V以下（バッテリー満充電時）
貸与されたバッテリーは、出走艇搭載時には2直列を越えてはならない。
 - ：ソーラーパネル出力 480W以下（25℃）（カタログ値による）
 - ：バッテリーは、主催者の貸与する物（別添資料を参照）4個を搭載する事。
（その他のバッテリーは計測・通信及びビルジ排水に使用するものに限り可とする。但し、主催者が貸与したバッテリーと電気的に接続してはならない）
 - ：バッテリーの充電に当たっては、船体のソーラーパネルによる充電は自由とするがその他の充電は主催者の許可を得る事。
 - ：感電に対する安全には充分配慮すること。
- ・ ドライバーが落水したときは、自動的にメインスイッチが切れること。

ソーラーボート部門クラスB

下記の2点についてクラスAと異なる。

- ・ 太陽エネルギーの使用法については、ソーラーパネル以外（熱、等）は自由とするが、ソーラーパネルを使用する場合は、次の制限を受けるものとする。
 - ：ソーラーパネルの充電時の電圧 38V以下（バッテリー満充電時）
貸与されたバッテリーは、出走艇搭載時には2直列を越えてはならない。
 - ：ソーラーパネル出力 100W以下（25℃）（カタログ値による）
 - ：バッテリーは、主催者の貸与する物（別添資料を参照）4個を搭載する事。
（その他のバッテリーは計測・通信及びビルジ排水に使用するものに限り可とする。但し、主催者が貸与したバッテリーと電氣的に接続してはならない）
 - ：バッテリーの充電に当たっては、船体のソーラーパネルによる充電は自由とするがその他の充電は主催者の許可を得る事。
 - ：感電に対する安全には充分配慮すること。
- ・ <II. 船体について> で規定した通り、船底が水面から離れる構造の船は認めない。

人力ボート部門クラスA

- ・ 動力は人力のみで、推進エネルギーは貯蔵してはならない。但し、スタート時に惰性を付けることは貯蔵とはみなさない。
- ・ 乗船者2名以内とする。又全員が搭乗しでも水上に浮いており、なお安定した状態を保ってられる事。（乗船者搭乗時の喫水は2メートル以内とする）

人力ボート部門クラスB

- ・ 下記の1点についてクラスAと異なる。
- ・ <II. 船体について> で規定した通り、船底が水面から離れる構造の船は認めない。

V. 選手について

- ・ 選手は本人の誓約書を提出する。
- ・ 選手が18歳未満の場合は親（保護者）の参加同意書を必要とする。
- ・ 申込書には選手名を必ず明記の事。又選手名に変更があった場合には速やかに主催者まで報告の事。
- ・ 主催者が必要と認めた場合には、選手に医師の診断を受けさせる場合がある。又、診断により乗船不相当と認められた者は速やかに選手の交代を申し出る事。
- ・ 選手は必ず健康保険証を携帯すること。コピーでも可。チームメンバーもなるべく携帯すること。
- ・ 選手は競技前の選手ミーティングへの出席義務がある。
- ・ 選手はヘルメット及びライフジャケットを着用しなければならない。
- ・ 選手は競技規則を遵守し、安全に競技しなければならない。

VI. 賞について

- ・ 4つの各クラスにおいて、ショートレース、ロングレース（全2レース）の優勝、準優勝、3位を表彰する。
- ・ 学生優勝について（チームの構成員が学生を主体としてなされ、申込時に明記されたチーム）
クラスA, Bを問わずショートレースとロングレースの総合順位ポイントの合計の少ないチームを優勝とする。

カウントされるロングレース 同点のときのアドバンテージレース

ソーラーボート部門 1時間耐久周回レース

ロングレース

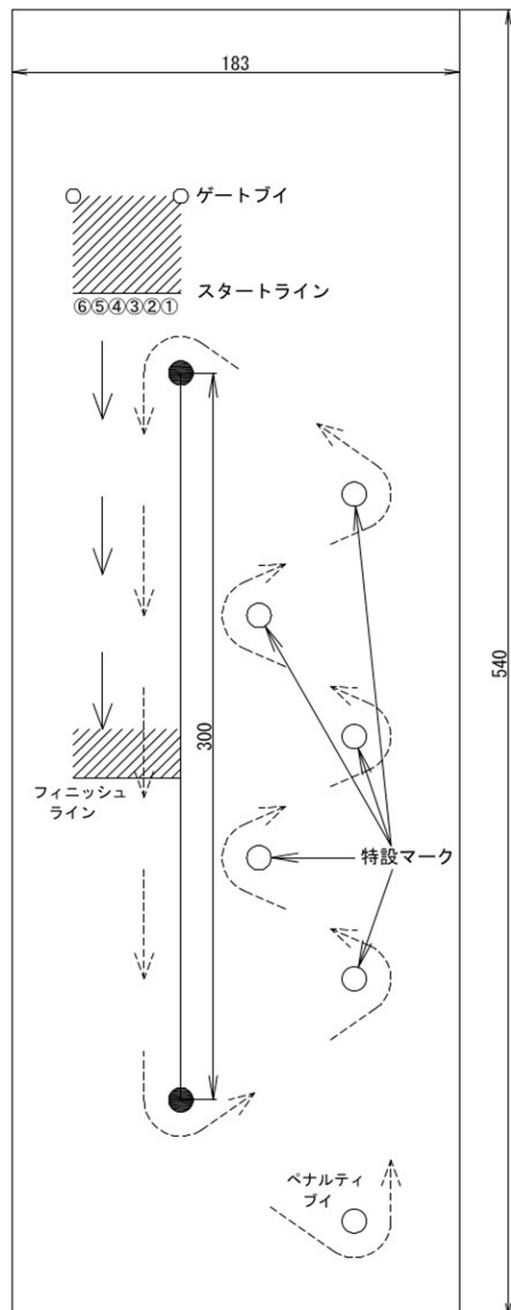
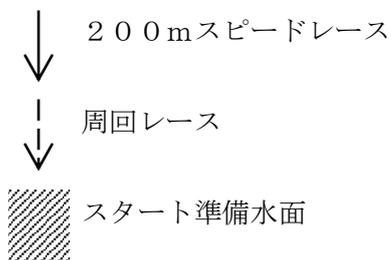
人力ボート部門 1周スラロームレース

ショートレース

スポンサーがついたときのみ賞金・賞品が出る。

- ・ 他に特別賞として表彰する。

VII. 基本的会場図 (概念図)



VIII. 競技

1. レースの種類

1. ショートレース

予選ラウンドは100mで1艇ずつのタイムトライアル

(4クラスの参加艇が定められた時間帯の中で1艇ずつ順次スタートし測定されたタイムにより決勝ラウンドの出場ヒートを決める)

決勝ラウンドは200mで最大6艇のレース

(予選ラウンドで得られたタイムにより順位決定ヒートを行う。したがって1～6位決定ヒート出場艇は7位以下にはならない)

2. ロングレース

2レースとも同じコースを使用するが、あらかじめ取った参加希望により1回のレースで順位を決定する(クラスによる出場分けはしない)。

1周スラロームレース

(出場艇全艇が一斉スタートし、1周し、ゴールした順に順位を決定する)

1時間耐久周回レース

(出場艇全艇が一斉スタートし、約1時間後にゴールした周回数が多い順に順位を決定する)

2. 競技者への通告

競技者への通告は、場内放送及び、公式掲示板(本部前)により通告する。

3. 走行指示の変更

走行指示は、レース確定会議により変更する場合がある。

(レース確定会議は、大会役員の内より組織する)

4. 競技規約

1. 出場資格

◎ 主催者が行う船体検査に合格した全艇が有する。

◎ レースにおいて危険行為による失格艇と審判に判断され、競技部会長よりその旨通告された艇はその後のレースへは出場出来ない。

2. レース内容

①ショートレース

(1) 予選

◎ 100mのタイムトライアルとする。決められた時間帯の中でなら何回トライしてもかまわない(但し本部の指示には従うこと)。

得られた最高タイムを持ちタイムとする。

(1-1) スタート

◎ スタートはランニングスタートとする。

◎ スタートラインは2つのスタートブイの中心を結ぶ直線とする。

◎ スタート準備行為としてスタートライン後方約30mに設置した2つのゲートブイとスタートラインにより構成されたスタート準備水面(以下スタート水面という)にはスタート審判の合図に従い、コース入り口より進入しなければならない。

◎ スタート審判の合図の後、各自任意のタイミングでスタートする。

(1-2) コース

- ◎ コースは、最短距離で100m離れたスタートラインとゴールラインの間とする。
- ◎ スタート前からゴール後まで、定められたブイ間を通過すること。
- ◎ 定められたブイを通過しない場合は、失格となる場合がある。

(2) 決勝

- ◎ 順位決定戦とし、最大6艇ずつのスタートとなる。予選のタイムにより順位決定戦の出場レースが決まる。
- ◎ 悪天候等によりレース確定会議がすべてのレースを行うことができないと判断した場合、予選の結果のみで順位を決めるときがある。

(2-1) コース

- ◎ 順位決定戦のコースは、最短距離で200m離れたスタートラインとゴールラインの間とする。
- ◎ スタートからゴールまでセパレートコースとし、定められたブイ間を通過すること。
- ◎ コースが変わっても他の艇の進路を妨害しない限り違反とはならない。

② ロングレース

- ◎ 予選等はなく全艇同時スタートの1レースのみとする。
- ◎ コースは、第1ターンマーク、第2ターンマーク及び5つの特設ブイを周回する全水面をレース水面とする。但し反時計回りとし、逆回転走は失格とする。
- ◎ 特設ブイの廻り方を間違えたときは、自発的に最初に第1ターンマークを回った後、ペナルティブイを廻らなくてはならない。
(間違い1回につき1周) これに違反した場合レース終了後審判部長より失格を言い渡される。
- ◎ スタート前からゴール後まで、オープンコースとし、他の艇の進路を妨害したり、危険な行為がなければ違反とはならない。

(1) 1周スラロームレース (約1000m)

- ◎ 2つのターンマークと5つの特設ブイを1周するタイムトライアルとする。

(2) 1時間耐久周回レース

- ◎ 2つのターンマークと5つの特設ブイで構成されたコースを周回し、約1時間で周回した回数を競う。スタートの合図より約1時間経過後に、先頭艇がフィニッシュラインを通過出来る様に予測し、その1周前にジャンを鳴らして予告する。その後フィニッシュラインを通過した先頭艇(予測した先頭艇と上位艇が入れ替わることもある)からチェッカーフラッグを振り始め、後続艇は順次フィニッシュとする。フィニッシュできるのは先頭艇フィニッシュ後10分間とする。順位付けは、フィニッシュした艇のみで、周回数の多い順(同数の場合は早くフィニッシュラインを通過した順)とする。なお、1時間のレース時間は天候等の急変で短縮する場合がある。この場合はアナウンスし告知する。

3. スタート方法 (ショートレース順位決定戦及びロングレースに適用)

- ◎ ショートレース順位決定戦のスタートは、最大6艇のランニングスタートとする。
- ◎ ロングレースでは各艇は第1・2ターンマークの延長線上のスタートライン側水面で待機し、スタート約5分前に音響信号1声にてスタートポジションを決める一斉スタートを行う。レース艇はスタートライン後方の好きなコース及び位置でスタート合図を待ち、自由にスタートする。
- ◎ スタートラインは2つのスタートブイの中心点を結ぶ直線とする。

- ◎ スタート準備行為として全艇、スタートライン後方のスタート準備水面（以下スタート水面という）にはスタート審判の合図に従い、各艇のセパレートコース延長線にあるコース入り口より進入しなければならない。
- ◎ やむをえない理由によりスタート審判の合図前にスタート水面に進入した場合はただちにスタート水面のスタートラインと反対側の水面へ艇を移動しなければならない。
- ◎ スタートライン後方の定められたコース内の任意の位置で任意の時間にスタートの為の助走を行うものとする。
- ◎ 自艇の定められたコース上に位置する艇に航路権があり、他の艇は航路権のある艇の運行を妨げる航行をしてはならない。
- ◎ スタート合図前は、船首がスタートラインを出てはならない。船首とは、水面から出ている部分の進行方向の先端のことを言い、航走状態で先端が変化する 船については、船体検査の際に船首を指定する。
- ◎ ロングレースの時はスタート合図から5分を越えてもスタートラインを通過しない艇は、オーバertime艇としてリタイアとする。
- ◎ 200mレースでの早すぎるスタート（フライング）は失格とする。 但し競技は続行し、全艇ゴールイン後、場内アナウンスにより失格艇を発表する。（フライング艇のみ失格）
- ◎ 一周スラロームレース及び1時間耐久周回レースでの早すぎるスタート（フライング）は2秒以内ではペナルティ（ペナルティブイを回航）とし、それ以上は失格とする。
- ◎ 多数の艇が早すぎるスタートを行い、これを読み取ることができない場合、またはスタート合図に誤りが生じた場合はゼネラルリコールとして、スタートをやり直す場合がある。ゼネラルリコールは音響信号単音を連続して発する。

4. レース判定

- ◎ 1周スラロームレースでは定められたマークを定められた方向に回航しない艇は、マーク不通過で失格とする。
- ◎ 1時間耐久周回レースでは定められたマークを定められた方向に回航しない艇は失格となるが、ペナルティブイを回航する事により回復する。
- ◎ 各マークから半径5m以内では、マークに近い艇に優先権がある。
- ◎ レース中に、他の艇と故意に接触したり危険行為を行ったりした場合、及び他の艇の進路を妨害したと審判により判断された艇は失格とする。
- ◎ 進路妨害を受けたと思う艇は、フィニッシュ後直ちにレース海面において抗議申し立ての意志表示をしなければならない。
- ◎ レース途中で、救助を求める場合は、救助フラッグ（黄色）《各自用意のこと》を掲げ合図する。
ただし、レスキューの要請は、リタイアの意思とはしない。レスキューが有利にならなければ復帰可能である。復帰不可能な場合は、レスキュー時に運営スタッフにリタイアを宣言すること。
レスキューは可能であれば船体を曳航するが、緊急の場合乗員の救助を優先し、船体を放棄する場合がある。
乗員またはチームからの要請が無い場合でも、運営側の判断により強制的にレスキューすることがある。
- ◎ ロングレースでのレース途中でのピットインは認める。 また、乗員の交代も認める。

- ◎ 特設ブイの廻り方を間違えたときは、自発的に最初に第1ターンマークを回った後、ペナルティブイを廻らなくてはならない<間違い1回につき1周>。これに違反した場合レース終了後審判部長より失格を言い渡される。
- ◎ 競技内容は気象条件、参加艇のレベル等によって予告無く変更することがある。競技における順位の決め方、コースの取り方、表彰方法については運営側が一切の権限を持っている。
- ◎ スタート位置は予選により決定、スタート後は他船の進路を妨害しない限り、どこを走ってもよい。
他船の進路をふさぐように蛇行すると、抗議を受けて失格となる可能性がある。

5. フィニッシュ

- ◎ フィニッシュの判定は、船首がフィニッシュラインに到達した時点で行う。そのときフィニッシュフラッグ(チェッカーフラッグ)を振る。ただし、ショートレース予選においてはチェッカーフラッグを振らない。
- ◎ フィニッシュラインは、水面上にゴール標識を取り付け明示する。
- ◎ ショートレース予選の時はスタート合図から3分を越えてもゴールラインに到達しない艇は、オーバータイム艇としてリタイアとする。
- ◎ ショートレース順位決定戦の時はスタート合図から10分を越えてもゴールラインに到達しない艇は、オーバータイム艇としてリタイアとする。
☆フィニッシュ後は速やかにフィニッシュラインから離れること。
- ◎ ロングレースでは先頭艇がフィニッシュラインを通過してから10分後にレースを終了する。

6. 抗議

- ◎ 抗議申し立ての意志表示は、審判団に目立つように抗議フラッグ(赤色)《各自用意のこと》を掲げて、その意志を示さなければならない。この合図により抗議申し立てを提示する権利が与えられ、レース終了後20分以内に書面(大会本部で用意した書式のもの)をもって、抗議費用(抗議につき1万円)とともに大会本部へ提出しなければならない。そのときこのレースの順位は参考順位として発表され、正式順位は審判団の審議を待つ。
- ◎ 審判団で審議し、審判部会長によってなされた判定には抗議を認めない。抗議が認められた場合抗議費用は返還され、認められなかった場合主催者の決算へ繰り入れられる。
- ◎ 与えられた走航条件(天候、コース、順番等)の違いに対する抗議は受け付けない。
レスキュー艇等運営側船による引き波や進路妨害についての抗議は受け付けない。

5. 船体検査

- ◎ 各艇の組立が完了した時点で参加受付まで当日渡された船検シートに記入して、船体検査を申し込むこと。各艇置き場で、船体検査係が行う。
- ◎ 船体検査合格によって出場艇として認め、船体に主催者が用意した合格シールを貼付する。その後審判部長が指名した艇については、何時でも再検査を受けなければならない。
- ◎ 船体検査で指摘され、改良・修理が必要な艇は再検査を行う。

- ◎ 船体検査時に船体に表示するゼッケン（縦400mm×横400mm）を確認する。
＜船体にゼッケンを明記しておくこと＞
- ◎ ショートレースとロングレースで舵角の調整・プロペラの交換・水中翼の取り外しや交換等の改造をすることは可能であるが、「Ⅲ. 船体について」で規定した事項を厳守すること。違反した場合は失格とする。
- ◎ 当日渡されたバッテリーの封印はテスト走行後にすることができる。

6. テスト走行

- ◎ 船体検査合格後にテスト走行を希望する艇は、参加受付へ申し込み、許可を得ること。
- ◎ テスト走行は係員の指示に従うこと。
- ◎ テスト走行は船体の調整・スタート練習に当てる（金曜日のみ）。
- ◎ テスト走行は各自持参のバッテリーでも可とする。

7. レース水面への推進

- ◎ 出場艇の進水は、レース順に行い、係員が誘導し指示する。
- ◎ 進水時に乗船者名、ライフジャケット・ヘルメットの装備を確認する。
- ◎ 進水、乗船場への移動、スタート準備等は、各艇（チーム）に責任をもって行うこと。
ただし、場内の設備を使用する場合は係員の指示に従うこと。
- ◎ 船台については、各艇（チーム）毎に準備すること。

8. まとめ

		ソーラー&人力ボート全クラス			
		ショート予選	ショート決勝	1周スローム	1時間耐久
競技	競技	100m 区間タイム計測→ヒート組合せ決定	200m 走 タイム順	着順	着順
	コース設定	一艇ずつ計測	準備タイム	オープン	←
スタート	方法	艇番コール後任意	一斉ランニングスタート	←	←
	コース基準	計測見通し線	スタートライン(マーク基準)	←	←
	船体基準	船首	←	←	←
	準備	海上待機	←	←	←
	予告	スタート艇/ 陸上より指示	1 分前、30 秒前、10 秒前にアナウンス	←	←
	合図	スタート艇/陸上指示により順次	スタート信号による。	←	←
	判定	船首基準	←	←	←
	フライングの扱い	なし	失格 (DSQ)	2 秒以内なら失格をへパナルティマークを回航することでキャンセル。それ以上は失格 (DSQ)	←
	セブ初コ 打切り時間	なし 指示後常識的時間内	音響および信号灯 フィニッシュ時限に含む	←	←
フィニッシュ	コース基準	計測見通し線	←	←	←
	船体基準	船首	←	←	←
	打切り時間	3 分	←	スタート後 10 分	先頭艇フィニッシュ後 10 分
	打切り時の扱い	リタイヤ (RET) 参考時間扱い	リタイヤ (RET)	リタイヤ (RET)	それまでの周回を有効とする
リタイヤ	意思表示	両手クロス&口頭	←	←	
へパナルティ	対象事項	なし	フライング	フライング (2 秒以内)	フライング (2 秒以内) マーク不通過
	へパナルティの回復	←	なし (失格)	へパナルティマーク回航	←
	マークタッチ	不問	←	←	←
その他の失格	対象事項	←	他船への進路妨害	マーク移動	←
		危険行為	←	←	←
抗議	意志表示	なし	レース終了後レース海面にて運営艇に意志表示 (口頭)	←	←
	書面提示	←	抗議費用と共に提出	←	←
	打切り時間	←	レース終了後 20 分以内	←	←

(付則)

1. 本レギュレーションは2015年3月31日制定され、2015年大会より適用されるものとする。
2. レギュレーションの変更については、この付則に変更年月日を明記し、当該年度の大会役員及び参加チームへのみ報告するものとする。

【改訂履歴】

改訂日	項目	変更前	変更後	変更理由
2016/04/30	II	ハイブリッド部門	廃止。 「動力用バッテリー」項追加。	最近の出場実績が無い為 支給品と明記
	III	船首には緊急曳航用の金具（バウアイ・直径14mmのロープを通せる事）及びロープ（浮くロープ10m・直径4～6mm）を取り付けておくこと。	船首付近には緊急曳航用のロープ（浮くロープ10m・直径4～6mm）を取り付けておくこと。	規制の緩和の為
		主催者が定める書体でなければならない。	見易い書体とする	規制の緩和の為
		船体に取り付ける掲示物等の規制	廃止 (例図も廃止)	現状では規制する必要が無い為
	IV	船体は競技時間中に受ける太陽エネルギーのみをそのまま、もしくは蓄えて推進力とし、	動力エネルギーは競技時間中に受ける太陽エネルギーのみをそのまま、及び貸与されたバッテリーに、蓄えて推進力とし、	表現の訂正
		ドライバーが運転ポジションより離れるときは、自動的にメインスイッチが切れること。	ドライバーが落水したときは、自動的にメインスイッチが切れること。	レース水面上に限定した
		ハイブリットボート部門	廃止	最近の出場実績が無い為
	V	選手は泳ぐことが出来なければならない	廃止	ライフジャケットの着用を義務づけている為
	VI	保険について	全項目削除 (以下項目 NO. 繰上げ)	募集要項に記載
	VIII. 1. 2	30分耐久周回レース	廃止	競技数変更
	VIII. 4. 1	ショートレースにおいて危険行為による失格艇と審判に判断され、競技部長よりその旨通告された艇はロングレースへは出場出来ない。	レースにおいて危険行為による失格艇と審判に判断され、競技部長よりその旨通告された艇はその後のレースへは出場出来ない。	レース種類の順序変更に対応出来る様に変更
	VIII. 4. 2. ②	ロングレースに参加する為、ショートレースから舵角の調整・プロペラの交換・水中翼の取り外し等の改造は可とする。但し船体検査時に申告すること	廃止	船体検査の項目との二重記載の為
	VIII. 4. 2. ②. (2)	30分耐久周回レース	廃止	競技数変更
	VIII. 4. 2. ②. (3)	その1周前にジャンを鳴らすとともにPフラッグ（青白旗）を振り予告する	その1周前にジャンを鳴らして予告する	現状に合わせる
		この場合はPフラッグとともにレッドフラッグを表示しアナウンスする	この場合はアナウンスし告知する	現状に合わせる
VIII. 4. 3.	レース艇はスタートライン後方の好きなコース及び位置でスタート合図（黄信号によるカウントダウン）を待ち、	レース艇はスタートライン後方の好きなコース及び位置でスタート合図を待ち、		

		スタートライン後方の約30m後方に設置した2つのゲートブイとスタートラインにより構成されたスタート準備水面	スタートライン後方のスタート準備水面	ゲートブイの設置を廃止した為
		スタート審判によるスタート水面の進入許可の合図は、気象、海象、各艇の準備状況等を考慮して時間設定する。合図は音声及びP旗（青白旗）により告示する	廃止	現状に合わせる
		スタート合図（緑信号）前は、船首がスタートラインを出てはならない	スタート合図前は、船首がスタートラインを出てはならない	スタート信号の変更に対応する為
		スタートの合図は、スタート前1分・30秒・10秒をアナウンスし、10秒前より電子音と信号灯（黄信号）にてカウントダウンをし、0秒（緑信号）でスタートする。同時にスタートフラッグ（緑旗）を上げ、スタート合図とする。（但し信号灯の合図を優先する）	廃止	スタート信号の変更に対応する為
		スタート信号の説明	廃止	スタート信号の変更に対応する為
		早すぎるスタート（フライング）は失格とする	200mレースでの早すぎるスタート（フライング）は失格とする	レース種類を限定する
			一周スラロームレース及び1時間耐久周回レースでの早すぎるスタート（フライング）は2秒以内ではペナルティ（ペナルティブイを回航）とし、それ以上は失格とする。	「フライング即失格」とならない様追記
		ゼネラルリコールは信号灯の全ての灯火を点滅させ、音響信号単音を連続して発する	ゼネラルリコールは音響信号単音を連続して発する	スタート信号の変更に対応する為
VIII. 4. 4.		ロングレースの1周スラロームレースでは……	1周スラロームレースでは……	簡略化
		ロングレースの30分及び1時間耐久周回レースでは定められたマークを定められた方向に回航しない艇は、ペナルティブイを回航する	1時間耐久周回レースでは定められたマークを定められた方向に回航しない艇は失格となるが、ペナルティブイを回航する事により回復する	適用レースの変更と、失格条件の明記

	レース途中で、レースを断念し救助を求める場合は、リタイアフラッグ（黄色）《各自用意のこと》を掲げ合図する。この合図により走行不能艇としリタイアとする	レース途中で、救助を求める場合は、救助フラッグ（黄色）《各自用意のこと》を掲げ合図する。ただし、レスキューの要請は、リタイアの意思とはしない。レスキューが有利にならなければ復帰可能である。復帰不可能な場合は、レスキュー時に運営スタッフにリタイアを宣言すること。レスキューは可能であれば船体を曳航するが、緊急の場合乗員の救助を優先し、船体を放棄する場合がある。乗員またはチームからの要請が無い場合でも、運営側の判断により強制的にレスキューすることがある。	レスキュー対象の条件とレスキューがリタイアの意思では無い事を明記
	ロングレースでのレース途中でのピットインは認める。	ロングレースでのレース途中でのピットインは認める。また、乗員の交代も認める。	乗員の交代が可能な事を明記
		競技内容は気象条件、参加艇のレベル等によって予告無く変更することがある。競技における順位の決め方、コースの取り方、表彰方法については運営側が一切の権限を持っている。	競技内容の変更等の変更に関する項目を追加
		スタート位置は予選により決定、スタート後は他船の進路を妨害しない限り、どこを走ってもよい。他船の進路をふさぐように蛇行すると、抗議を受けて失格となる可能性がある。	コースに関する条件を明記
VIII. 4. 5.	ショートレースとロングレースで舵角の調整・プロペラの交換・水中翼の取り外し等の改造をする場合は、船体検査時に申請すること。	ショートレースとロングレースで舵角の調整・プロペラの交換・水中翼の取り外しや交換等の改造をすることは可能であるが、「Ⅲ. 船体について」で規定した事項を厳守すること。違反した場合は失格とする。	レースによる仕様の変更は船検時の申告は不要とするが、規定項目を厳守する事を明記
VIII. 4. 6.	スタート練習用に金曜日午後は信号灯を設置する。	廃止	準備出来ない時がある為
VIII. 4. 8.		「まとめ」項目&表	理解し易い様追加